

史跡メモ	
さくた	ごしんがく 裂田神社御神額
きく	もんしやう 神文(菊の紋章)
えま	ふじまきかりず 絵馬(富士巻狩図)
しやにち ①3月の社日(春ごもり)	
②7月(夏ごもり)	
しやにち ③9月(社日ごもり)	
④11月28日(火たきごもり)	
鳥居(明治39年設立)	
こま	いぬ 狛犬
しめかけいし	注連懸石
裂田神社改修記念碑 (平成元年3月)	

朝々にかかげられたる絵馬仰ぎ
古代をしのぶ裂田の社

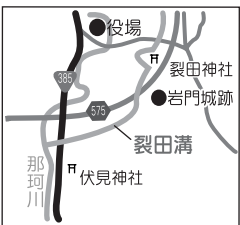
絹枝

イの木の子の枝を一本ずつ手に持ち、拝殿前でお参りして、そのシイの葉を一枚納めます。また戻って鳥居をくぐり拝殿へと進み、これを参拝者がくり返し、シイの葉が1,000枚になると「千度参り」が成就します。よく他所の神社仏閣でお百度参りの光景を見かけますが、「千度参り」は珍しく感じました。昔は二つの「御願立て」の中に絵馬の奉納もあったそうですが、絵馬の入手が難しくなり、現在では行われておりません。11月28日の「火たきごもり」は、神社の境内で行われます。10月の神無月が過ぎ、神々のお帰りを迎える「お火たき神事」でもあります。12月30日には注連縄作りがあり、神社に新しい注連縄と松飾りが供えられて、新年を迎える準備が整うと年間の例祭も終了です。平成17年3月の西方沖地震で被害を受けた鳥居も、19年秋に修復されました。

週末には、裂田溝の整備の完成を
知った町内外からの家族づれが多くなりました。特にここから下流は、地元関係者以外は立ち入れない場所でしたが、新しい遊歩道が完成し、通行できるようになりました。いにしへの息遣いが聞こえてくるような、水の道ができております。
邪馬台国の著述で有名な「宮崎康平」先生ご夫妻が昭和40年代に、裂田溝を訪れておられ、このとき案内されたのが、郷土の大先覚者「真鍋大覚」先生です。既に両先生とも故人となられており、裂田溝の検証をお聞きできないのが残念でなりません。宮崎先生の奥様のお許しを得て「裂田溝にたたずむ」御三方の写真に掲載させていただきました。
次号は古代の水路の面影が残る散策路を紹介します。

探訪 100

ながわ



那珂川町郷土史研究会

裂田溝27

裂田神社

裂田神社は安徳字龍頭(りゅうとう)にあります。神社の由来については、江戸時代に編纂された『筑前国続風土記附録』の中に、「亀島の側に地藏堂あり、是神功皇后を祭れる社にして、地藏と附合せしや、いぶかし」と書かれています。いつの頃から地元では地藏堂といわれていた時代があったのでしょうか。今は、御祭神として神功皇后が祭られています。拝殿の奥にある神殿の扉には木彫の菊花の紋章があり、上段には「裂田神社」の御神額がかけてられています。裏面には「文政五歲次壬子三月(1822)と墨書が読みとれます。また、拝殿の上部には数多くの絵馬がところせましと奉納されています。神社の1650年祭を祝した寄附者の芳

名が入った絵馬や、50年後には創立1700年祭を奉賀した「富士巻狩図」の絵馬があります。これには鎌倉時代(1193)源頼朝が富士山麓で挙行した、大規模な狩猟にちなんだ猪退治の勇壮な絵が描かれており、絵の中に「作物を荒す猪が来ぬように、退治描いて豊作祈る」と奉賀者の願いが書かれています。山が近いこの地区は、今でも猪や猿の被害に悩まされているそうです。
1650年祭が行われた大正7年は、西暦1918年に当たり、逆算すると裂田神社が創立されたのは、西暦268年となります。
境内には明治39年建立の鳥居を始め、狛犬、注連懸石、平成元年三月建立の裂田神社改修記念碑等が建っています。例祭は3月の社日(春ごもり)、7月(夏ごもり)、9月(社日ごもり)、11月28日(火たきごもり)が行われています。いずれの例祭日も、皆さんが手作りの御馳走を持ち寄り、拝殿にて親睦と歓談のひと時を過ごします。特に7月の夏ごもりの日は「御願立て」が行われます。和紙に「お潮井とり」「千度参り」とそれぞれ書き、こより状によつて、これを長老が別のこよりの先で一つ釣り上げます。釣り上げた和紙に書かれている「御願」が9月の「社日ごもり」の行事となっています。「お潮井とり」と書いてあれば、当番の人が宮崎八幡宮へお潮井をとりに行き、持ち帰って各戸に配ります。「千度参り」と書いてあれば、神社裏のシ



創立、1700年祭を記念して奉納された絵馬(富士巻狩図)



裂田神社御神殿と狛犬



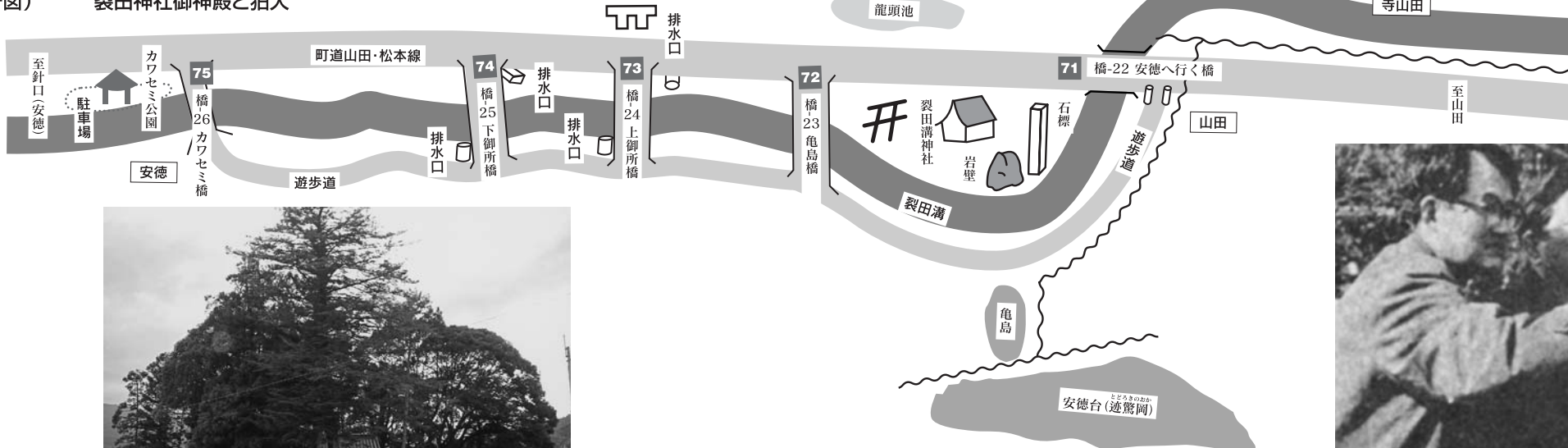
裂田神社改修記念碑



裂田神社の御神額と菊の御紋章



シイの葉を手に持ち、お千度参りをする地区の皆さん



裂田神社の社



裂田溝を案内される真鍋大覚先生(左)と宮崎康平氏御夫妻
出展:「神々のふるさと」昭和56年3月15日発行 宮崎康平著